

アジア太平洋の図書館情報学と日本

志保田 務
(LISSASPAC 副会長)

要約

アジア（環）太平洋図書館情報学会（LISSASPAC）は、2015年6月、インド SRM 大学を会場とした第2回 ICIDL 国際会議（2nd International Conference on Innovation Driven Librarianship）の場で設立宣言されました。日本からは私と前川和子教授などが参加しました。会長には今ご出席頂いている Oh 博士が選ばれました。翌2016年14か国から代表が知恵を寄せ合い定款を作りました。7月この日本支部設立、規定が策定されました。今日ここに日本支部の設立セレモニー及び記念研究講演会を開きます。

大阪府立中之島図書館、日本図書館研究会、京都図書館研究会のご支援、また講演・研究発表の先生方、会員初めスタッフと御なり下さった皆様に厚くお礼申し上げます。

アジア太平洋地域における図書館情報学の発展は、インドの S. R. ランガナタンやアジア研究に力を注ぎ、大城、長倉、鎌田先生など多くの日本人司書を採用したアメリカの大学図書館の隠れた貢献がありました。Oh 博士は、トリプル・マスターとしてアメリカの大学で英語学、経営学をおさめ、インドからの招聘でランガナタンを極める訪問研究を重ねました。そして KDC 韓国十進分類法の最新版の編集責任者、韓国図書館情報学会長と重責を担いました。また今年、韓国の LISSASPAC 関係の講演に、日本図書館情報学会前会長・根本彰慶応義塾大学教授を招聘し、応募した岡田大輔講師に発表機会を与えられました。Kim 准教授は Oh 博士のもとで企画を推進し、Lim 教授は日本に留学し東大時代の根本教授の薫陶を受けました。Son 博士には、日韓の架け橋となって頂いています。私と Oh 先生とは大学同志が姉妹校という縁で4回ほどの招聘を互いに重ねています。すばらしい人的連携が基礎にあります。

そこで今般のセレモニーは自然体で始めましたが、実際は日程を初め hard でした。会員、スタッフの皆様、協賛団体、印刷社の親身なご協力があったのです。こうした行事を安定開催するには蓄積が必要です。深井燿子先生を中心とした IFLA 多文化部会、アジア太平洋図書館情報学教育学会、長倉先生、大平博士がご活躍の国際学校図書館協会 IASL、立花先生の発表があった日本図書館研究会の中国交流、私が縁を取った AzLA、JLA のホーナー図書館員交流基金などがあります。だが国際的な出力は強力と言えません。

International Journal である Knowledge Organization への積極参加、英語による JISTaP、Journal of Information Science Theory and Practice の発行等、韓国側の国際的発信は力強いです。同誌は第1巻（2013年）に ICIDL 関係国の仮代表を編集顧問と列記し私も任命されました。

それら諸事も鑑み Oh 博士の助言で当論集用 ISSN を中村先生にとって頂きました。年2回の発行が逐次刊行物の最低条件です。本誌を初め日本支部の成長を期待し LISSASPAC の全太平洋地域への進展を望みます。今般の全行事の成功を祈念します。